於：タイ国２１世紀農場

その後お変わりございませんか。今、２００７年は去り、２００８年になります。市場経済社会の中での今日のこの地球上の人類社会の無用な在り様は一体、何と云ったら良いのでしょうか。凄い時代へ！恐ろしい方向へ！ドンドン進んでいる。そう思いませんか？

①人口の爆発的増大が止まらない・・・全地球上で人間は１秒間に２～３人ずつ殖え、２０５０年には８９億に殖えるとは国連の中位推定値です。後４３年で今の人口が１５０％ですよ。今でも食料も水も不足気味なのに。今、１年に８３００万人殖えており、その数は年と共に増大しています。２０世紀の１００年間に３.６倍に殖えました。今の若人の時代はその子供数を何人に抑えればよいのか。若人に背負わされた一大難問せす。解かねば滅亡。

②地球の温暖化はドンドンエスカレートしている・・・今更私がその数字を上げる必要もなく、皆様万人、自分で充分肌で感じており、その為の地球号上の凡ゆる所で大災害のニュースの絶える日は有りません。ブッシュはそれをわざと避けて認めず、続く炭酸ガス排出の多い中国、そして印度ともその規制の京都議定書に入っておりません。１９９７年にその規制の、世界で１０億トン減らそうとのサミットの結果は丸１０年経った今、１０億トン減らすどころか、逆に２７５億トンずつ増えているのです。議長国の日本も丸反対にドンドン増えています。誰がこれを規制できるでしょうか。

③世界的真水の不足・・・日本は世界一真水に恵まれた国です。人類は地球上の水の５％しか利用出来ず、その７０％は農業の灌漑に使われます。気候の大変動、人口増工業化でその排水が再利用できず、２０２５年には世界で１０億の人が水不足で大きい争いが起きるだろうと云われています。そうすると当然食料生産へ廻る水が減り、食料の争奪が起こります。中国に次いで世界第二位の穀物輸入国の日本の食料はどこから手に入れますか。火星になるべく早く農場を開く努力をしておくべきでしょうか。地球の耕地は劣化、老化して殆どが頭打ちですよ。

④緊迫化して来た世界の食糧事情・・・２１０年前、マルクスの有名な「人口論」。世界はそれを無視して予め手を打たなかったそのつけが今、「地球は今、どれだけの人口を養えるか」の論議が世界を掩っている。既に１９８０年代（２０余年前）地球の人間扶養能力はオーバーしたと見られている。その時の人口は４５億位、今の６５億は既に２０億人もオーバーしている。ではどうやって生きているのか。化学物質や遺伝子組み替えを大々的に使い、今迄の余剰の貯えで今までやっと持ちこたえたが、既に１０億人近い人口が飢餓人口であり、その数は増えるばかりである。
この事を一家族の生活費に例えれば、一家の働きの年収を４５０万円と見るとき、その生活費が６５０万円かかっているとすれば、その不足分の２００万円は貯金の切り崩し、生活レベルの下げであろう。それでも不足した場合は借金、地球号に火星号が金を貸すだろうか。いま、人口に対する食料不足がはっきり見えてきた。ではどうするか。一家全員自殺だろうか？
“人類は今、地獄の一丁目に入った”と日本の大学の先生が「World and Population」で述べておられる。地獄の　道は一方通行であろう。バック不可能「えんま」は容赦しないぞ。

今、上に書いた色々の問題点を検討してみて世界中が一致して「最緊急事」として努力する他、手の打ち様はあるまい。“出来ずば全ておしまい”。人類は６５００万年前に地球の生物の王座にあった恐竜が突然滅亡したその轍を踏む事になるであろう。一大殺戮線の後で。
あなたは去った２００７年（平成１９年）、人類の永続的生存の為にどの様な働きをしましたか。私は今、酷暑の熱帯の地で、世界最貧国にランクされた国々の農村開発に全能力を注ぎ込んで、上記の件の解決に幾らかでも力になれないものかと苦闘しています。今年も又お力添え下されば有り難い極みです。その富は必ずあなたにプラスに帰ります。
「新年オメデトウゴザイマス」とは書けませんでした。メデタイコトがどこにあるのか、という気持ちからです。私の残された人生で、新年の挨拶文に「オメデトウゴザイマス」の言葉を使うことは無いと思います。使える時が来れば嬉しいのですが……。
“泣きながら、泣き乍ら日々を過ぐ、八十路（やそじ）こし猶（なお）、茨道続く”

谷口巳三郎拝